特42
462

高德

上、[illegible]

次第ヨ

夏[illegible]

[illegible]

[illegible]

上、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の人を感ずる所。さくらの花まの法まうく
[illegible]程ふ作樂の主まる者くは。心舞うふ色を
眺めうするあそは一色散りちらせ。神の富ふ
[illegible]まうせうし。形をしまする。色盛り桜さく
[illegible]を神の主未守。まうく風は散らせる
[illegible]ふと。濃うしも神の庭れ色をあそし多り
[illegible]まそれ是を者しおれ。志は社の庭神未年八

[illegible]いそ花をも散らすと。時くまに歩こを星ふ
[illegible]ありかと言の義ふも及ぼぬまをう咲く色を見
[illegible]るらふ。大和心をあまらるもの。
[illegible]色の色。春ふ色を初めて今日年ち。時ち重
[illegible]を隆りあまり浦庭れたりもいうて又句
[illegible]る色と見る毎をそ賞ふ事毎ふ。句ふ桜を
[illegible]見あるあら。神代の俤れさらふ事

ときいふ所に来る人を尋ねて度々事のゆへ此方の
事をいふ何事をいふにも是なる桜も皆當社の
氏神なりと云へり。又人皆氏神なりと云。又當社を
桜の宮と申す。此宮よりつきたる潤まで申すはあり
は其潤を尋ねて語り給へと云へり。其
中に命じ。相模の元弘の比。逆臣日ふ勢を
引き。恐れ帝を隠岐の國へ遷し奉る。其比
備前の國の住人。児島の高徳と云し者。
既に帝を奪ひ取り奉り再義兵を挙げんと思ひ
しに志を達し難し。其あたり城ありて上方へ通
ずる道。路を堅め。路を塞ぎ。往来なり。
其夜高徳大木なる桜の一本を押削り。十字の唐詩
を書き付く。其後何人かあらぬ。帝や
ごとく是を見て。能歌を給ひしとぞ。はべりける後

の世の人も。高陽ぶ祝し、櫻木の跡を社を造造
桜の宮と名付つ、今も其名を高陽の
赤き心を墨染に郭と其色を競ひる実や隠
あき。名を宋代に留まりぬ。咲耶と共に聲をぶ。
日本男子の鑑と今の世までも語るまり
夫妻毎に参り多年を。櫻木もある本
敬し、大和魂を人と共。弥生の白山櫻

花を見ると心まり。春芽春素
動きる。聖帝の大恩代。共に世界に新あき。櫻花
こそ。まこと咲耶姫の名に恥ぬ。
咲る花数しき大和魂の赤心を。こゝ見て
少めし櫻木の色香物ある花と枝。まこはき芽
原氏瑞徳の國氏妻の光家もまゝ晩名んせ。
袖を聯ねて見れば。老若男女生綾都鄙より

集ひくるさまを見るに名將乃古蹟なり南方久
米のぎらい山や日あり羽岐の山や日あり醜く山色
日も吳竹のまろ川やはしるとも孫乃水。みつてらち
ゝくゝ色のもと。芦ん子すもの月は。新や春の日は。
黄昏時も多う乃雪や色はるの月は。先地ゝ移しく。
まく城しまを様を唐土人もめてるるなる春の花
も今日若のけしき多う乃實乃月を見るもの唯人
あらん人の貴の名いの成人なん。今を何をの色むき。
誘し我を市人の紀念をの為に桜木の。色と其高を
競ひてしと其者きすう高陸の郷見こそ春しく
り法者色色の。新まおもひ旅ねしてますの絵を
積頃しく跡をひて孫。車れて海まみえんと
い捨くせるふ。色の未ける濃淡ゝ
桜麻の。生の下葉引せすゝ。色の未陰よう

[illegible]
[illegible]月。何まこかいもの[illegible]迷
[illegible]法のまゝ[illegible]妙経を読誦す
後しゝつ
一巻載
東風暖を吹いて家[illegible]。恵像九嶺塵埃峰
し。面白。時し[illegible]今[illegible]梓弓[illegible]春も来[illegible]吹く
風のしゝ枝を吹[illegible]石の成[illegible]いまの[illegible]武
[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]ようの[illegible]来り。面白や[illegible]石田
儀やふてる月のけはよく見まゝ。甲冑を帯せし人新
[illegible]
の。[illegible]あり。いまの人[illegible]
[illegible]
[illegible]帰のゝ[illegible]陸見[illegible]所に来りし言
徳[illegible]。其時の[illegible]様あしく語[illegible]
世[illegible]孫[illegible]の七日の事[illegible]。帝[illegible]警固
の武士[illegible]給ひ[illegible]浪路[illegible]づれ。隠
岐の国へ[illegible]者[illegible]。其[illegible]徳[illegible]。兄弟の[illegible]
[illegible]。今この[illegible][illegible]よりも[illegible][illegible]且つ忠

り。いまく帝を奪はんと。一族どもを集めて。板坂山
の巓(イタヾキ)よ。身を忍ばせくゐ待居(マヰ)りしに。こゝて日も
山の端(ハ)に隠れぬまに。左軍(ミクルマ)の新(アラ)しく見えあり
しうち。いの成事のかなとうんと心をくばりつゝ
城(ジヤウ)みくるまに。山陰(ヤマカゲ)をよろめきつゝ。少(スコシ)あるうち
お孔雀(クジヤク)の羽(ハ)をかざりしるし。徒(ミナウ)に清(キヨ)うし
恵(エ)し。高徳(タカノリ)の君(キミ)ふやう。さらも美(ビ)の板坂
こゝは完竟のおもむき。いと果(ハ)てあひく待ちあらん
と。道(ミチ)のなりきる板坂の。山の雪をあら凍きつゝ板坂
て。直違(ヒタヽカ)ひ潮(シホ)りしいまこの時成道(ナルミチ)の人。帝を何(ナニ)と思(オモ)
ひしを。何(ナニ)とも知(シ)らぬ。彼方(カナタ)へやまるく
見まて出向(イデム)かも。なく事(コト)もあらぬまと。心の内(ウチ)
こゝに孔雀(クジヤク)つかく。せあ(セヤ)くるおのがお宿をたいて一度(ヒト)上
こゝノ山ふやまをとり。君の

[illegible]
[illegible]
[illegible]

明治廿三年四月の末乃比
院庁書作樂神社造替つゝしの
しるしとゝなるべきものなり

西川甫記

219
292

明治廿五年五月五日印刷
同　年五月拾日發行

京都市下京區宮町通四条北入番戸士族
校訂者　金剛直喜

京都市上京區二条通堀川西入十軍町
印刷者
兼發行　檜常之助

特42
462

074918−001−4

特42−462

〔揺本〕 清時，高徳

金剛　直喜／著

M35，37

CEL−0007